

和歌山社保協が実態調査

和歌山県社会保障推進協議会は7日、「介護保険・国保・後期高齢者医療保険料が高すぎる」実態調査アンケート結果を公表しました。

アンケートには165人が回答（64歳以下23%、65～69歳22%、70～74歳28%、75歳以上27%）。収入額の平均は157万円（年金のみ50%、仕事をしている35%、貯蓄を切り崩している19%、親族の援助2%）。介護保険料の平均7

衣類・食料を我慢

万4908円（負担率4.5%）、国保の平均15万6715円（同9.2%）、後期医療の平均9万1985円（同5.2%）、この1年の医療費の平均6万4230円、（同4.1%）で2万～5万円41%、1万円以下19%、6万～10万円16%などでした。特徴は女性に低年金・低収入が多く、年金収入だけで生計を立てている人は半数、3分の1以上が仕事をあがっています。

をし、年金収入などが低いほど保険料や医療費の負担率が高い傾向にあります。自由記載では「上着はほとんど購入しない」「食料品を我慢している」「これからの季節、電気代が心配」「少しくらい痛くても（病院を）我慢することがある」「値上げラッシュにものこれ以上切り詰める所がない」など多くの悲鳴があがっています。

「もう切り詰める所ない」高齢者悲鳴